

県内企業景況調査結果

[2020年10～12月期実績、2021年1～3月期見通し]

沖縄振興開発金融公庫 調査部発表

— 県内景況は、停滞が続くなか一部に持ち直しの動きがみられる —

調査結果のポイント

1. 業況判断 D.I.

実績（10～12月期）：5期連続のマイナスとなったものの、「悪化」超幅は大幅に縮小
〔前期△55.7%ポイント（以下、単位省略）⇒当期△43.1〕

- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、観光関連産業を中心に大幅なマイナスとなったものの、全ての業種で「悪化」超幅が縮小し、一部に持ち直しの動きがみられる

見通し（1～3月期）：来期は「悪化」超幅がほぼ横這いの見通し（来期△44.5）

- ・引き続き全産業で大幅なマイナスとなるも、一部に持ち直しの動きがみられる

2. 景況天気

実績：3期ぶりの「☁️（曇り）」（前期△32.4⇒当期△20.5）

建設業で「☁️（曇り）」→「☁️（薄曇り）」

小売業、情報通信業で「☔️（雨）」→「☁️（曇り）」

製造業、卸売業で引き続き「☁️（曇り）」

運輸業、サービス業、飲食店・宿泊業で引き続き「☔️（雨）」

見通し：引き続き「☁️（曇り）」となる見通し（来期△21.5）

情報通信業で「☁️（曇り）」→「☁️（薄曇り）」

サービス業で「☔️（雨）」→「☁️（曇り）」

建設業で引き続き「☁️（薄曇り）」

製造業、卸売業、小売業で引き続き「☁️（曇り）」

運輸業、飲食店・宿泊業で引き続き「☔️（雨）」

3. 売上 D.I.

実績：「減少」超幅が大幅に縮小（同△61.8⇒同△47.5）

見通し：「減少」超幅がほぼ横這いの見通し（同△48.4）

4. 採算水準 D.I.

実績：「赤字」超幅が大幅に縮小（同△12.5⇒同△0.9）

見通し：「赤字」超から「黒字」超に転じる見通し（同2.4）

5. 資金繰り D.I.

実績：「苦しい」超幅が縮小（同△22.9⇒同△13.0）

見通し：「苦しい」超幅が拡大の見通し（同△18.6）

※本調査の回答期間は令和2年11月20日～令和2年12月4日となっており、GoToキャンペーンの一時停止や緊急事態宣言の発出等、新型コロナウイルス感染症拡大の最新の動向が十分に反映されていないことにご留意ください。

沖縄振興開発金融公庫 調査部

[調査内容についてのお問い合わせ先]

調査部 金融経済調査課（担当：砂川）

沖縄県那覇市おもろまち1-2-26

電話：098-941-1725 FAX：098-941-1920

I. 調査要領

1. 調査目的

本調査は、県内における企業の景況を把握し、企業経営のための情報を提供することを目的とする。

2. 調査対象

沖縄県内に本社のある法人企業のうち、原則として資本金1千万円以上かつ従業員数20名以上の企業を対象とする。

3. 調査対象企業数及び回答状況

業種	項目	調査対象企業数	回答数	回答率 (%)
		(A)	(B)	(B)/(A)×100
全産業		413	339	82.1
製造業		75	63	84.0
建設業		72	65	90.3
卸売業		50	39	78.0
小売業		55	47	85.5
運輸業		37	35	94.6
情報通信業		23	19	82.6
サービス業		52	45	86.5
飲食店・宿泊業		43	24	55.8

※全産業には電力・ガス、不動産業が含まれるため、各業種合計と全産業の値は一致しない。

4. 調査方法

対象企業に調査票を郵送し、自計記入を求める方法による。

5. 調査対象期間

当期 … 2020年10～12月期実績 来期 … 2021年1～3月期見通し

6. 調査実施期間

2020年11月下旬～2020年12月下旬

(発送：2020年11月20日、回収基準日：2020年12月4日)

※本調査の回答期間は令和2年11月20日～令和2年12月4日となっており、GoToキャンペーンの一時停止や緊急事態宣言の発出等、新型コロナウイルス感染症拡大の最新の動向が十分に反映されていないことにご留意ください。

7. 用語説明等

- (1) 本調査は、原則として前年同期との比較による調査であるが、採算水準、在庫水準、雇用判断については当該期に関する質問となっている。
- (2) D. I. (Diffusion Index) とは、質問に対しプラス、中立、マイナスの3つの選択肢を用意し、このうちプラスと答えた企業の割合から、マイナスと答えた企業の割合を差し引いたものである。
- (3) 景況天気については、売上、採算水準、資金繰りD. I. を平均し、その値を5段階に区分して判定している。

II. 調査結果

1. 業況判断

— 当期は5期連続のマイナスとなったものの、「悪化」超幅は大幅に縮小、
来期は「悪化」超幅がほぼ横這いの見通し —

(1) [2020年10~12月期実績]

自社の業況を総合的に判断する業況判断D. I. は、△43.1%ポイント(以下、単位省略)と5期連続のマイナスとなったものの、「悪化」超幅は大幅に縮小した。

業種別にみると、製造業、卸売業、情報通信業、サービス業、飲食店・宿泊業で「悪化」超幅が大幅に縮小、小売業、運輸業で「悪化」超幅が縮小、建設業で「悪化」超幅がやや縮小となった。

(2) [2021年1~3月期見通し]

来期の業況判断D. I. は△44.5と、「悪化」超幅がほぼ横這いの見通しとなっている。

業種別にみると、情報通信業で「悪化」超幅が大幅に縮小、サービス業で「悪化」超幅が縮小、運輸業で「悪化」超幅がやや縮小、建設業で「悪化」超幅がほぼ横這いとなるものの、製造業で「悪化」超幅が大幅に拡大、卸売業、小売業、飲食店・宿泊業で「悪化」超幅が拡大の見通しとなっている。

図表1-1. 業況判断D.I.

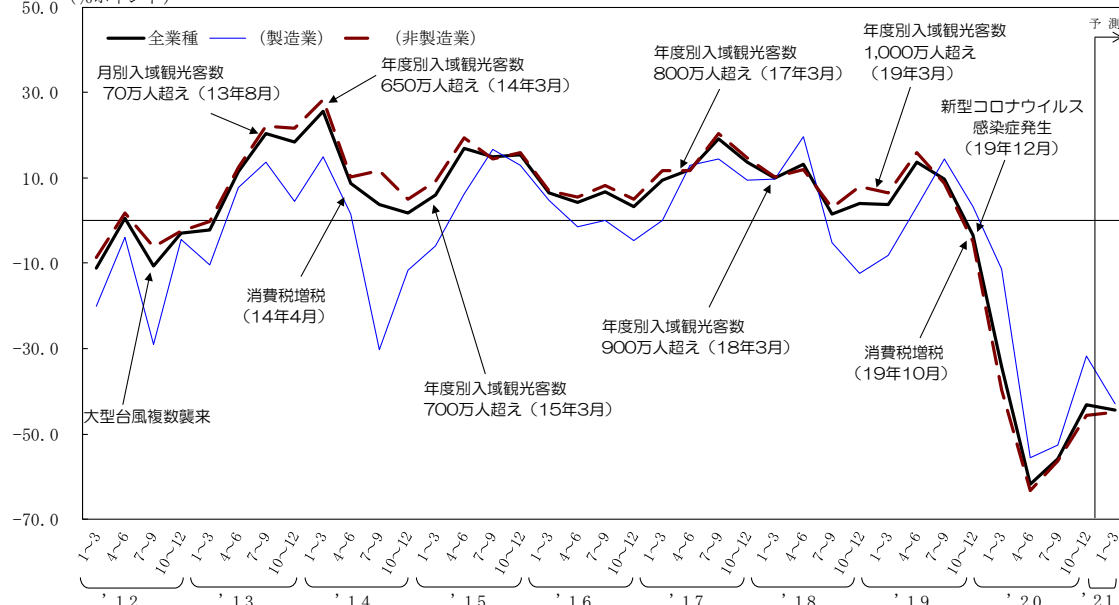
参考:業況判断D. I. (前年同期比、「好転」-「悪化」企業割合)

(単位: %ポイント)

業種	区分	2019年		2020年		2021年			
		7~9月期 実績	10~12月期 実績	1~3月期 実績	4~6月期 実績	7~9月期 前回実績	10~12月期 今回実績	1~3月期 今回見通し	
全産業	D. I. (①-②)	9.6	△ 3.4	△ 34.3	△ 61.9	△ 55.7	(△55.4)	△ 43.1	△ 44.5
	① 好転(%)	26.5	20.0	12.1	5.7	6.4	(5.8)	10.6	8.3
	② 悪化(%)	16.9	23.4	46.4	67.6	62.1	(61.2)	53.7	52.8
製造業		14.3	3.3	△ 11.3	△ 55.6	△ 52.5	(△44.3)	△ 31.7	△ 42.9
建設業		1.6	3.2	△ 11.5	△ 23.4	△ 23.0	(△29.5)	△ 20.0	△ 18.5
卸売業		23.1	0.0	△ 23.7	△ 68.4	△ 62.2	(△62.2)	△ 43.6	△ 48.7
小売業		14.3	△ 4.9	△ 47.6	△ 65.0	△ 52.4	(△52.4)	△ 44.7	△ 53.2
運輸業		6.1	0.0	△ 66.7	△ 85.3	△ 82.4	(△82.4)	△ 77.1	△ 74.3
情報通信業		13.6	△ 9.1	△ 30.0	△ 85.0	△ 60.0	(△60.0)	△ 36.8	△ 10.5
サービス業		0.0	△ 18.6	△ 46.5	△ 76.6	△ 66.7	(△60.0)	△ 55.6	△ 48.9
飲食店・宿泊業		0.0	△ 22.7	△ 90.9	△ 91.7	△ 88.0	(△92.0)	△ 66.7	△ 75.0

図表1-2. 業況判断D. I. の推移

(%ポイント)



2. 景況天気

— 当期は3期ぶりの「曇り」、来期も「曇り」の見通し —

(1) [2020年10~12月期実績]

当期の県内企業の動向を全産業ベースで見ると、売上D. I. (△61.8→△47.5)で「減少」超幅が大幅に縮小、採算水準D. I. (△12.5→△0.9)で「赤字」超幅が大幅に縮小、資金繰りD. I. (△22.9→△13.0)で「苦しい」超幅が縮小となったことから、景況天気(△32.4→△20.5)は3期ぶりの「曇り」となった。

業種別にみると、建設業で「曇り」から「薄曇り」、小売業、情報通信業で「雨」から「曇り」、製造業、卸売業で引き続き「曇り」、運輸業、サービス業、飲食店・宿泊業で引き続き「雨」となった。

(2) [2021年1~3月期見通し]

来期の見通しは、採算水準D. I. (2.4)で「赤字」超から「黒字」超に転じるものの、資金繰りD. I. (△18.6)で「苦しい」超幅が拡大、売上D. I. (△48.4)で「減少」超幅がほぼ横這いとなることから、景況天気(△21.5)は引き続き「曇り」の見通しとなっている。

業種別にみると、情報通信業で「曇り」から「薄曇り」、サービス業で「雨」から「曇り」、建設業で引き続き「薄曇り」、製造業、卸売業、小売業で引き続き「曇り」、運輸業、飲食店・宿泊業で引き続き「雨」の見通しとなっている。

図表2-1. 景況天気図

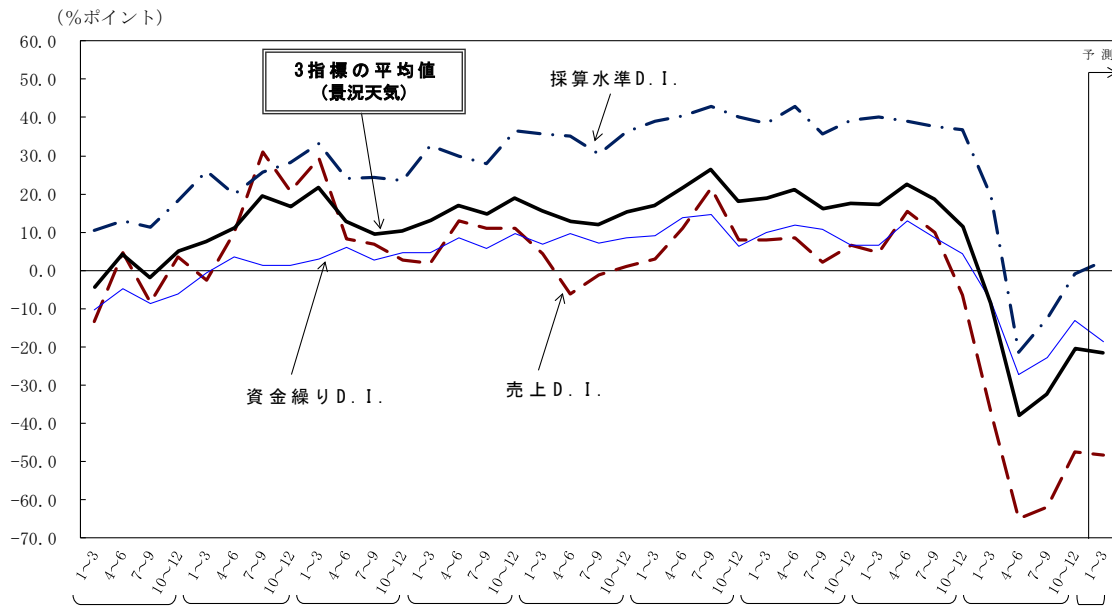
参考:景況天気(売上、採算水準、資金繰りD.I.の平均値)

(単位: %ポイント)

業種	区分	2019年				2020年			2021年
		7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期		1~3月期
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業		☀️ 18.7	☁️ 11.6	☁️ △8.6	☔️ △37.8	☔️ △32.4	☔️ (△34.8)	☁️ △20.5	☁️ △21.5
製造業		☀️ 21.2	☁️ 18.9	☁️ 7.0	☁️ △27.5	☁️ △28.4	☁️ (△24.6)	☁️ △10.6	☁️ △16.4
建設業		☁️ 7.4	☁️ 5.3	☁️ 7.7	☁️ △3.6	☁️ △6.0	☁️ (△15.3)	☁️ △2.6	☁️ 0.5
卸売業		☀️ 35.9	☀️ 13.5	☁️ 7.0	☔️ △40.4	☁️ △20.7	☁️ (△27.9)	☁️ △8.5	☁️ △12.0
小売業		☀️ 21.4	☀️ 13.0	☁️ △19.0	☔️ △45.8	☔️ △34.1	☁️ (△37.3)	☁️ △22.0	☁️ △27.0
運輸業		☀️ 17.2	☀️ 24.2	☁️ △24.4	☔️ △54.9	☔️ △50.0	☔️ (△56.9)	☔️ △49.5	☔️ △51.4
情報通信業		☀️ 19.7	☁️ 1.5	☁️ △6.7	☔️ △53.3	☔️ △36.7	☔️ (△31.7)	☁️ △5.3	☁️ 3.5
サービス業		☁️ 9.6	☁️ 7.0	☁️ △20.2	☔️ △47.5	☔️ △40.0	☔️ (△37.8)	☔️ △31.9	☔️ △27.4
飲食店・宿泊業		☀️ 27.0	☁️ 1.5	☔️ △63.6	☔️ △86.1	☔️ △82.7	☔️ (△81.3)	☔️ △62.5	☔️ △69.4

☀️ 快晴 — 30以上~100以下 ☁️ 曇り — △30以上~△5未満 ☔️ 雨 — 10以上~30未満 ☁️ 薄曇り — △5以上~10未満

図表2-2. 売上,採算水準,資金繰りD. I.の推移 (全業種)



3. 売上

— 当期は「減少」超幅が大幅に縮小、来期は「減少」超幅がほぼ横這いの見通し —

(1) [2020年10~12月期実績]

当期の売上D.I.は△47.5と、「減少」超幅が大幅に縮小した。

業種別にみると、製造業、卸売業、情報通信業、サービス業、飲食店・宿泊業で「減少」超幅が大幅に縮小、小売業で「減少」超幅が縮小、運輸業で「減少」超幅がやや縮小、建設業で「減少」超幅がほぼ横這いとなった。

(2) [2021年1~3月期見通し]

来期の売上D.I.は△48.4と、「減少」超幅がほぼ横這いの見通しとなっている。

業種別にみると、情報通信業で「減少」超幅が大幅に縮小、建設業で「減少」超幅が縮小となるものの、卸売業、運輸業、サービス業、飲食店・宿泊業で「減少」超幅が拡大、製造業、小売業で「減少」超幅がやや拡大の見通しとなっている。

図表3-1. 売上D.I.

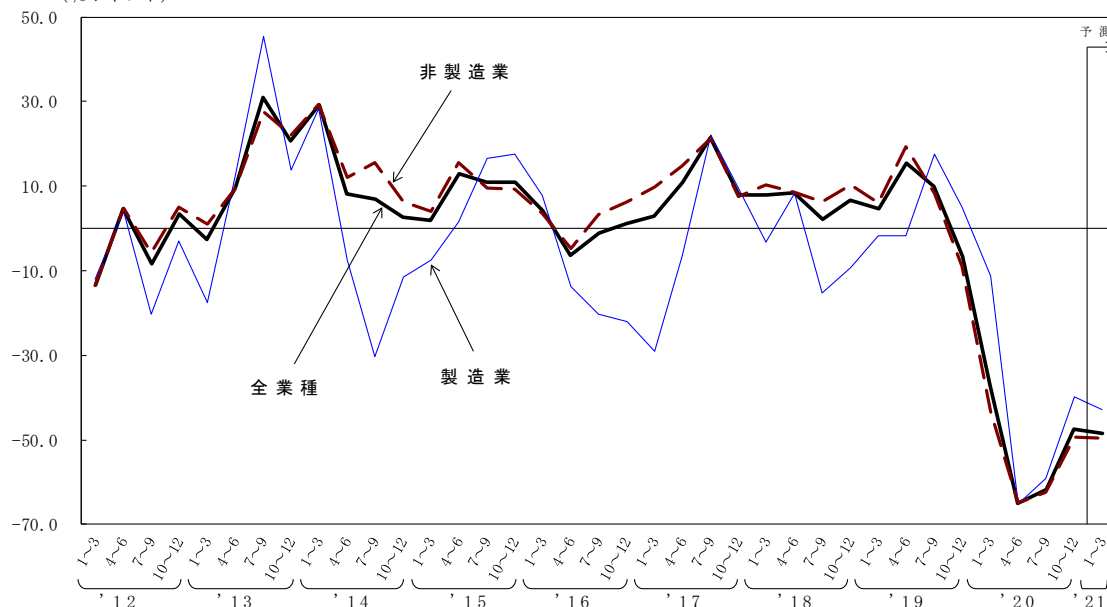
参考: 売上D.I. (前年同期比、「増加」-「減少」企業割合)

(単位: %ポイント)

業種	区分	2019年		2020年				2021年	
		7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期	
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	D.I. (①-②)	9.9	△ 6.5	△ 37.1	△ 64.9	△ 61.8	(△61.2)	△ 47.5	△ 48.4
	① 増加(%)	36.1	27.4	18.4	8.1	8.0	(6.1)	14.5	10.9
	不変(%)	37.7	38.8	26.2	18.9	22.3	(26.6)	23.6	29.8
	② 減少(%)	26.2	33.8	55.5	73.0	69.7	(67.3)	61.9	59.3
製造業		17.5	5.0	△ 11.3	△ 65.1	△ 59.0	(△57.4)	△ 39.7	△ 42.9
建設業		△ 11.1	△ 14.3	△ 19.7	△ 25.0	△ 32.8	(△36.1)	△ 30.8	△ 23.1
卸売業		30.8	△ 16.2	△ 34.2	△ 76.3	△ 62.2	(△70.3)	△ 41.0	△ 46.2
小売業		11.9	△ 4.9	△ 52.4	△ 75.0	△ 59.5	(△59.5)	△ 51.1	△ 55.3
運輸業		12.1	18.2	△ 66.7	△ 79.4	△ 82.4	(△76.5)	△ 80.0	△ 85.7
情報通信業		9.1	△ 40.9	△ 60.0	△ 90.0	△ 75.0	(△60.0)	△ 52.6	△ 31.6
サービス業		2.2	0.0	△ 34.9	△ 68.1	△ 66.7	(△64.4)	△ 46.7	△ 53.3
飲食店・宿泊業		23.8	△ 27.3	△ 81.8	△ 91.7	△ 92.0	(△96.0)	△ 70.8	△ 79.2

図表3-2. 売上D.I.の推移

(%ポイント)



4. 採算水準

— 当期は「赤字」超幅が大幅に縮小、 来期は「赤字」超から「黒字」超に転じる見通し —

(1) [2020年10～12月期実績]

当期の採算水準D. I. は $\Delta 0.9$ と、「赤字」超幅が大幅に縮小した。

業種別にみると、運輸業で「赤字」超幅がやや拡大となったものの、製造業、小売業、情報通信業で「赤字」超から「黒字」超に転じ、建設業、卸売業で「黒字」超幅が拡大、飲食店・宿泊業で「赤字」超幅が大幅に縮小、サービス業で「赤字」超幅が横這いとなった。

(2) [2021年1～3月期見通し]

来期の採算水準D. I. は2.4と、来期は「赤字」超から「黒字」超に転じる見通しとなっている。

業種別にみると、飲食店・宿泊業で「赤字」超幅がやや拡大、小売業で「黒字」超から「保合い」となり、製造業で「黒字」超幅が縮小となるものの、情報通信業で「黒字」超幅が大幅に拡大、建設業で「黒字」超幅がやや拡大、サービス業で「赤字」超幅が大幅に縮小、運輸業で「赤字」超幅が縮小、卸売業で「黒字」超幅が横這いの見通しとなっている。

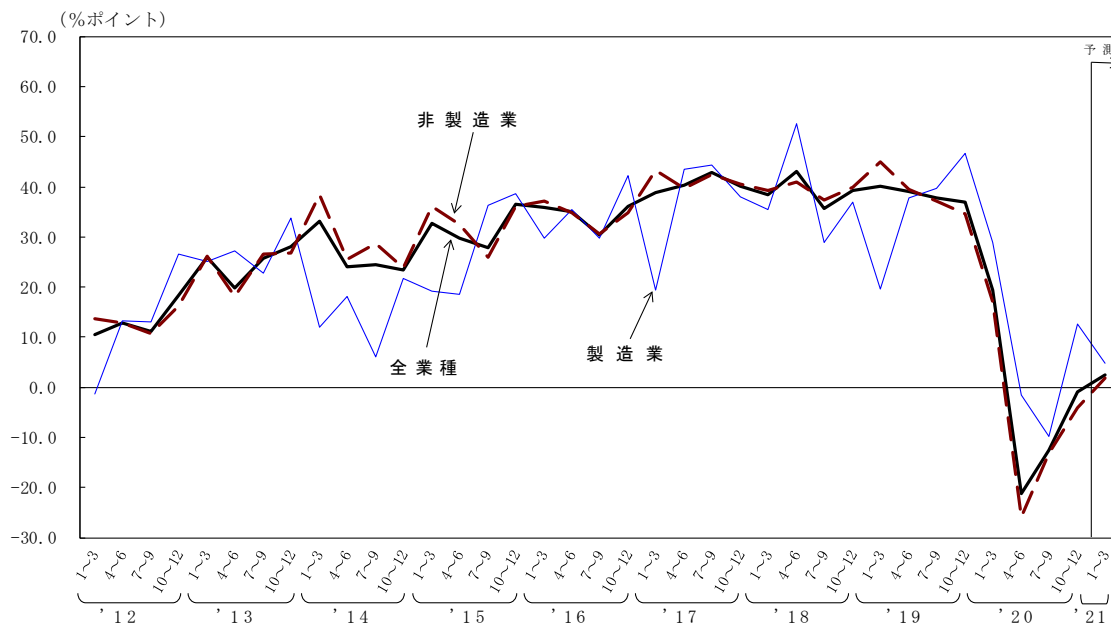
図表4-1. 採算水準D.I.

参考: 採算水準D. I. (当該期、「黒字」-「赤字」企業割合)

(単位: %ポイント)

業種	区分	2019年		2020年		2021年			
		7～9月期 実績	10～12月期 実績	1～3月期 実績	4～6月期 実績	7～9月期 前回実績	10～12月期 今回実績	1～3月期 今回見通し	
全産業	D. I. (①-②)	37.7	36.9	19.3	$\Delta 21.3$	$\Delta 12.5$	($\Delta 14.1$)	$\Delta 0.9$	2.4
	① 黒字(%)	47.6	47.1	41.4	26.1	28.4	(24.8)	33.6	31.6
	② 赤字(%)	42.5	42.8	36.4	26.4	30.6	(36.4)	31.9	39.2
	② 赤字(%)	9.9	10.2	22.1	47.4	41.0	(38.8)	34.5	29.2
製造業		39.7	46.7	29.0	$\Delta 1.6$	$\Delta 9.8$	($\Delta 3.3$)	12.7	4.8
建設業		27.0	25.4	37.7	18.8	18.0	(11.5)	27.7	32.3
卸売業		59.0	45.9	50.0	$\Delta 21.1$	8.1	(5.4)	17.9	17.9
小売業		50.0	43.9	16.7	$\Delta 25.0$	$\Delta 9.5$	($\Delta 9.5$)	4.3	0.0
運輸業		27.3	45.5	3.3	$\Delta 44.1$	$\Delta 32.4$	($\Delta 44.1$)	$\Delta 37.1$	$\Delta 31.4$
情報通信業		31.8	27.3	40.0	$\Delta 35.0$	$\Delta 10.0$	($\Delta 10.0$)	15.8	36.8
サービス業		22.2	30.2	$\Delta 2.3$	$\Delta 44.7$	$\Delta 26.7$	($\Delta 22.2$)	$\Delta 26.7$	$\Delta 4.4$
飲食店・宿泊業		47.6	27.3	$\Delta 59.1$	$\Delta 91.7$	$\Delta 88.0$	($\Delta 88.0$)	$\Delta 70.8$	$\Delta 75.0$

図表4-2. 採算水準D. I. の推移



5-1. 資金繰り

— 当期は、「苦しい」超幅が縮小、来期は「苦しい」超幅が拡大の見通し —

(1) [2020年10~12月期実績]

当期の資金繰りD. I. は $\Delta 13.0$ と、「苦しい」超幅が縮小した。

業種別にみると、情報通信業で「苦しい」超から「楽」超に転じ、製造業、小売業、飲食店・宿泊業で「苦しい」超幅が大幅に縮小、卸売業で「苦しい」超幅が縮小、運輸業、サービス業で「苦しい」超幅がやや縮小、建設業で「苦しい」超幅がほぼ横這いとなった。

(2) [2021年1~3月期見通し]

来期の資金繰りD. I. は $\Delta 18.6$ と、「苦しい」超幅が拡大の見通しとなっている。

業種別にみると、製造業、卸売業、小売業、運輸業、飲食店・宿泊業で「苦しい」超幅が拡大、建設業、サービス業で「苦しい」超幅がやや拡大、情報通信業で「楽」超幅が大幅に縮小の見通しとなっている。

図表5-1-1. 資金繰りD.I.

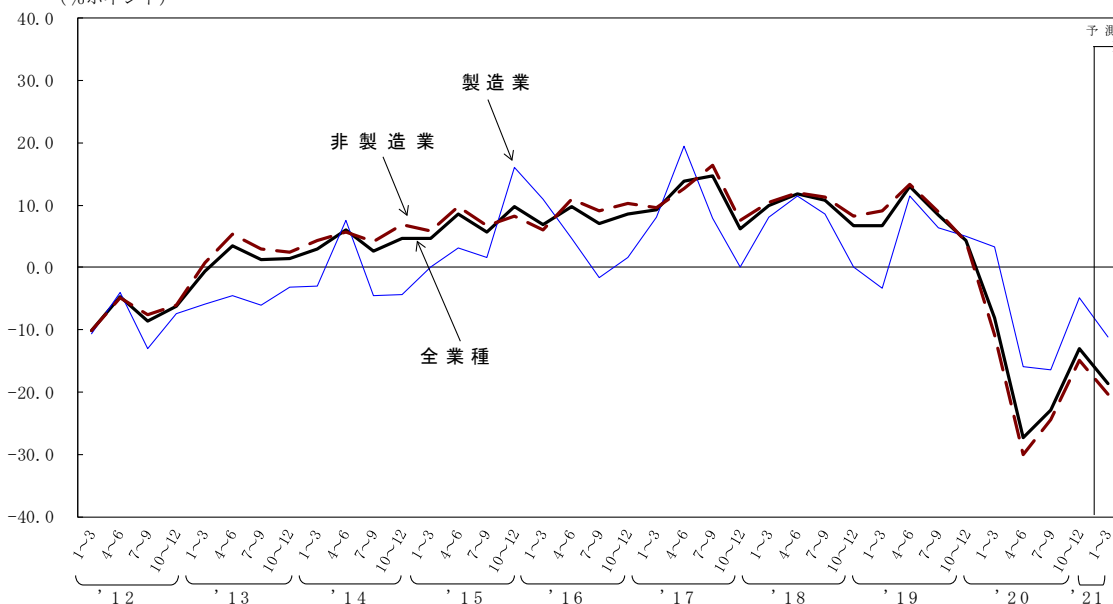
参考:資金繰りD.I. (前年同期比、「楽」-「苦しい」企業割合)

(単位: %ポイント)

業種	区分	2019年		2020年		2021年			
		7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期	
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	D. I. (①-②)	8.4	4.3	$\Delta 8.1$	$\Delta 27.3$	$\Delta 22.9$	($\Delta 29.1$)	$\Delta 13.0$	$\Delta 18.6$
	① 楽 (%)	14.8	12.0	9.0	5.7	5.5	(1.8)	10.0	5.3
	不変 (%)	78.9	80.3	73.8	61.3	66.1	(67.3)	67.0	70.8
	② 苦しい (%)	6.3	7.7	17.1	33.0	28.4	(30.9)	23.0	23.9
	製造業	6.3	5.0	3.2	$\Delta 15.9$	$\Delta 16.4$	($\Delta 13.1$)	$\Delta 4.8$	$\Delta 11.1$
	建設業	6.3	4.8	4.9	$\Delta 4.7$	$\Delta 3.3$	($\Delta 21.3$)	$\Delta 4.6$	$\Delta 7.7$
	卸売業	17.9	10.8	5.3	$\Delta 23.7$	$\Delta 8.1$	($\Delta 18.9$)	$\Delta 2.6$	$\Delta 7.7$
	小売業	2.4	0.0	$\Delta 21.4$	$\Delta 37.5$	$\Delta 33.3$	($\Delta 42.9$)	$\Delta 19.1$	$\Delta 25.5$
	運輸業	12.1	9.1	$\Delta 10.0$	$\Delta 41.2$	$\Delta 35.3$	($\Delta 50.0$)	$\Delta 31.4$	$\Delta 37.1$
	情報通信業	18.2	18.2	0.0	$\Delta 35.0$	$\Delta 25.0$	($\Delta 25.0$)	21.1	5.3
	サービス業	4.4	$\Delta 9.3$	$\Delta 23.3$	$\Delta 29.8$	$\Delta 26.7$	($\Delta 26.7$)	$\Delta 22.2$	$\Delta 24.4$
	飲食店・宿泊業	9.5	4.5	$\Delta 50.0$	$\Delta 75.0$	$\Delta 68.0$	($\Delta 60.0$)	$\Delta 45.8$	$\Delta 54.2$

図表5-1-2. 資金繰りD. I. の推移

(%ポイント)



5-2. 借入難易

— 当期は「容易」超幅がほぼ横這い、来期は「容易」超から「困難」超へ転じる見通し —

(1) [2020年10~12月期実績]

当期の民間金融機関からの借入難易D. I. は6.5と、「容易」超幅がほぼ横這いとなった。業種別にみると、運輸業で「困難」超から「容易」超に転じ、小売業で「保合い」から「容易」超となり、情報通信業で「容易」超幅が拡大、建設業で「容易」超幅がやや拡大となったものの、サービス業、飲食店・宿泊業で「容易」超から「困難」超へ転じ、製造業、卸売業で「容易」超幅が縮小となった。

(2) [2021年1~3月期見通し]

来期の借入難易D. I. は $\Delta 0.3$ と、「容易」超から「困難」超へ転じる見通しとなっている。

業種別にみると、運輸業で「容易」超から「困難」超へ転じ、サービス業、飲食店・宿泊業で「困難」超幅が大幅に拡大、製造業で「容易」超から「保合い」となり、小売業、情報通信業で「容易」超幅が大幅に縮小、卸売業で「容易」超幅が縮小、建設業で「容易」超幅がやや縮小の見通しとなっている。

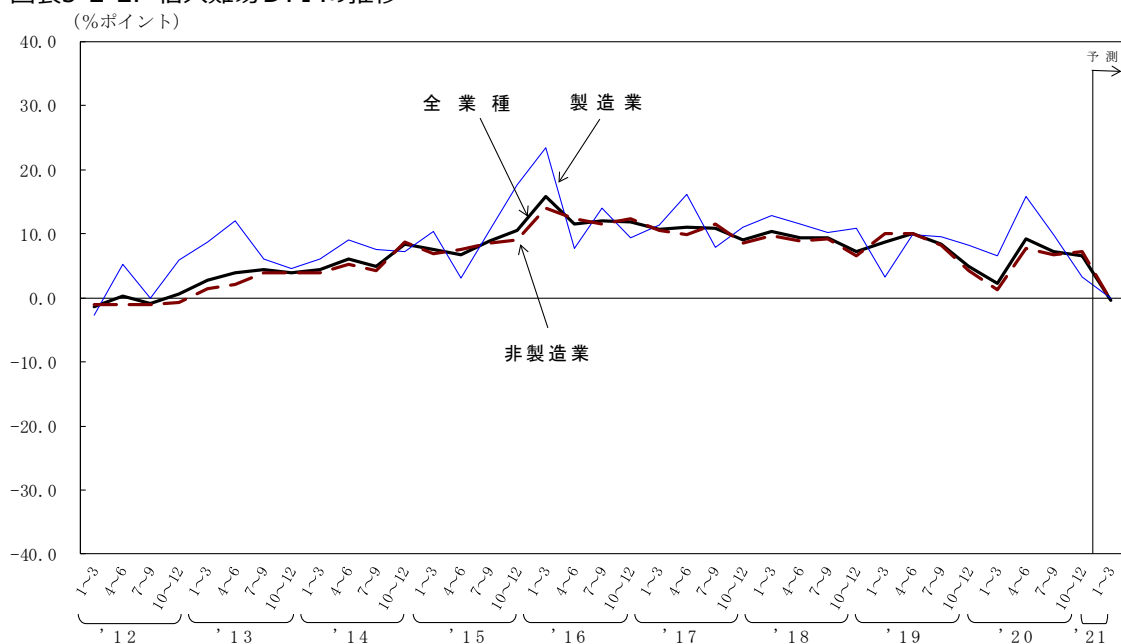
図表5-2-1. 借入難易D.I.

参考: 借入難易D. I. (前年同期比、「容易」-「困難」企業割合)

(単位: %ポイント)

業種	区分	2019年		2020年				2021年	
		7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期		1~3月期
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	D. I. (①—②)	8.4	4.9	2.2	9.3	7.3	($\Delta 1.5$)	6.5	$\Delta 0.3$
	① 容易(%)	11.4	8.3	7.2	15.9	13.5	(8.0)	12.1	8.8
	不変(%)	85.5	88.3	87.9	77.5	80.4	(82.6)	82.3	82.0
	② 困難(%)	3.0	3.4	5.0	6.6	6.1	(9.5)	5.6	9.1
	製造業	9.5	8.3	6.5	15.9	9.8	(3.3)	3.2	0.0
	建設業	11.1	7.9	4.9	4.7	8.2	(1.6)	10.8	7.7
	卸売業	5.1	5.4	5.3	10.5	16.2	(10.8)	10.3	5.1
	小売業	2.4	2.4	$\Delta 4.8$	17.5	0.0	($\Delta 14.3$)	12.8	2.1
	運輸業	9.1	0.0	3.3	0.0	$\Delta 2.9$	($\Delta 8.8$)	2.9	$\Delta 2.9$
	情報通信業	13.6	0.0	10.0	10.0	15.0	(10.0)	21.1	10.5
	サービス業	6.7	2.3	$\Delta 7.0$	17.0	4.4	($\Delta 11.1$)	$\Delta 2.2$	$\Delta 13.3$
	飲食店・宿泊業	14.3	9.1	0.0	$\Delta 12.5$	12.0	(0.0)	$\Delta 4.2$	$\Delta 16.7$

図表5-2-2. 借入難易D. I. の推移



Ⅲ. 参考

参考 1. 販売数量（製造業・卸売業・小売業のみ）

— 当期は「減少」超幅が大幅に縮小、来期は「減少」超幅が拡大の見通し —

(1) [2020年10～12月期実績]

当期の販売数量D.I.は△49.0と「減少」超幅が大幅に縮小となった。
業種別にみると、卸売業、小売業で「減少」超幅が大幅に縮小、製造業で「減少」超幅が縮小となった。

(2) [2021年1～3月期見通し]

来期の販売数量D.I.は△54.4と、「減少」超幅が拡大の見通しとなっている。
業種別にみると、製造業、小売業で「減少」超幅が拡大、卸売業で「減少」超幅がやや拡大の見通しとなっている。

表1. 販売数量D.I.

参考:販売数量D.I.（前年同期比、「増加」-「減少」企業割合）

（単位：%ポイント）

業種	区分	2019年		2020年				2021年	
		7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期		1～3月期
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	D.I. (①—②)	16.7	△ 7.2	△ 26.8	△ 57.4	△ 61.4	(△59.3)	△ 49.0	△ 54.4
	① 増加(%)	40.3	27.5	21.8	12.8	8.6	(5.7)	12.1	8.1
	不変(%)	36.1	37.7	29.6	17.0	21.4	(29.3)	26.8	29.5
	② 減少(%)	23.6	34.8	48.6	70.2	70.0	(65.0)	61.1	62.4
	製造業	20.6	△ 3.3	△ 9.7	△ 46.0	△ 63.9	(△57.4)	△ 54.0	△ 60.3
	卸売業	25.6	△ 10.8	△ 36.8	△ 57.9	△ 59.5	(△64.9)	△ 43.6	△ 46.2
	小売業	2.4	△ 9.8	△ 42.9	△ 75.0	△ 59.5	(△57.1)	△ 46.8	△ 53.2

参考 2. 販売価格（製造業・卸売業・小売業のみ）

— 当期は「下降」超から「上昇」超に転じる、 来期は「上昇」超幅がほぼ横這いの見通し —

(1) [2020年10～12月期実績]

当期の販売価格D.I.は4.7と、「下降」超から「上昇」超に転じた。
業種別にみると、製造業、卸売業で「下降」超から「上昇」超に転じ、小売業で「下降」超幅が縮小となった。

(2) [2021年1～3月期見通し]

来期の販売価格D.I.は4.0と、「上昇」超幅がほぼ横這いの見通しとなっている。
業種別にみると、小売業で「下降」超幅がやや縮小となるものの、卸売業で「上昇」超幅が縮小、製造業で「上昇」超幅がほぼ横這いの見通しとなっている。

表2. 販売価格D.I.

参考:販売価格D.I.（前年同期比、「上昇」-「下降」企業割合）

（単位：%ポイント）

業種	区分	2019年		2020年				2021年	
		7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期		1～3月期
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	D.I. (①—②)	13.2	13.0	3.5	△ 7.1	△ 7.1	(△9.3)	4.7	4.0
	① 上昇(%)	21.5	21.7	19.0	14.9	13.6	(11.4)	14.1	14.1
	不変(%)	70.1	69.6	65.5	63.1	65.7	(67.9)	76.5	75.8
	② 下降(%)	8.3	8.7	15.5	22.0	20.7	(20.7)	9.4	10.1
	製造業	14.3	15.0	11.3	△ 1.6	△ 6.6	(△9.8)	6.3	7.9
	卸売業	23.1	8.1	5.3	2.6	△ 2.7	(△2.7)	12.8	5.1
	小売業	2.4	14.6	△ 9.5	△ 25.0	△ 11.9	(△14.3)	△ 4.3	△ 2.1

参考3. 在庫水準（製造業・卸売業・小売業のみ）

— 「過剰」超幅がやや縮小—

〔2020年12月期末〕

在庫水準D. I. は△18.1と、前期末と比べて「過剰」超幅がやや縮小となった。

業種別にみると、製造業で「過剰」超幅が縮小、小売業で「過剰」超幅がやや縮小、卸売業で「過剰」超幅がほぼ横這いとなった。

表3. 在庫水準D.I.

参考：在庫水準D. I.（当該期末の水準、「不足」-「過剰」企業割合）

（単位：％ポイント）

業種	区分	2019年		2020年			
		9月期末	12月期末	3月期末	6月期末	9月期末	12月期末
全産業	D. I. (①—②)	△ 2.8	△ 5.8	△ 6.3	△ 22.7	△ 22.1	△ 18.1
	① 不足(%)	3.5	2.2	3.5	5.7	2.9	2.0
	適正(%)	90.3	89.9	86.6	66.0	72.1	77.9
	② 過剰(%)	6.3	8.0	9.9	28.4	25.0	20.1
	製造業	△ 1.6	△ 5.0	△ 1.6	△ 17.5	△ 21.3	△ 14.3
	卸売業	△ 2.6	△ 2.7	△ 7.9	△ 21.1	△ 21.6	△ 20.5
	小売業	△ 4.8	△ 9.8	△ 11.9	△ 32.5	△ 23.8	△ 21.3

参考4. 雇用判断

－ 当期は「不足」超幅が大幅に拡大、来期は「不足」超幅がほぼ横這いの見通し －

(1) [2020年10～12月期実績]

当期の雇用判断D. I. は23.6と、「不足」超幅が大幅に拡大となった。

業種別にみると、運輸業で「過剰」超から「不足」超に転じ、卸売業、小売業で「不足」超幅が大幅に拡大、製造業、建設業、サービス業で「不足」超幅が拡大、飲食店・宿泊業で「過剰」超から「保合い」となり、情報通信業で「保合い」となった。

(2) [2021年1～3月期見通し]

来期の雇用判断D. I. は23.3と、「不足」超幅がほぼ横這いの見通しとなっている。

業種別にみると、情報通信業、飲食店・宿泊業で「保合い」から「不足」超となり、運輸業で「不足」超幅が拡大、建設業で「不足」超幅がやや拡大となるものの、小売業で「不足」超幅が縮小、製造業で「不足」超幅がやや縮小、卸売業、サービス業で「不足」超幅が横這いの見通しとなっている。

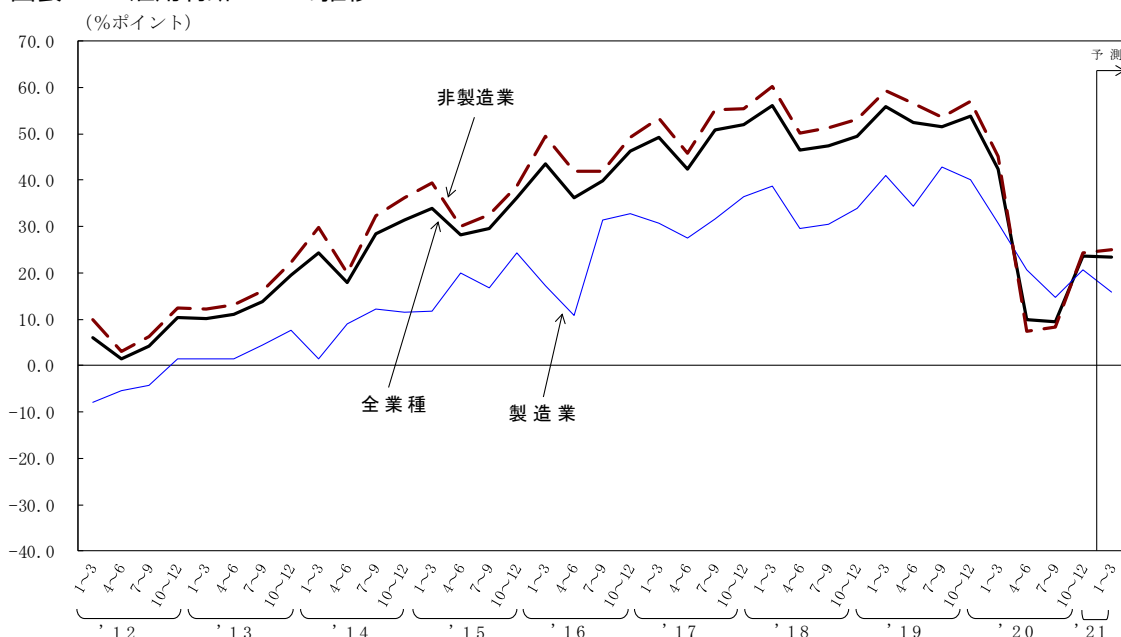
図表4-1. 雇用判断D.I.

参考:雇用判断D. I. (当期期、「不足」-「過剰」企業割合)

(単位: %ポイント)

業種	区分	2019年		2020年		2021年			
		7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	D. I. (①-②)	51.5	53.8	42.4	9.9	9.5	(15.0)	23.6	23.3
	① 不足(%)	53.6	54.8	46.1	27.0	26.6	(28.4)	33.3	32.7
	適正(%)	44.3	44.3	50.2	55.9	56.3	(58.1)	56.9	57.8
	② 過剰(%)	2.1	0.9	3.7	17.1	17.1	(13.5)	9.7	9.4
	製造業	42.9	40.0	30.6	20.6	14.8	(16.4)	20.6	15.9
	建設業	49.2	57.1	52.5	37.5	39.3	(47.5)	49.2	52.3
	卸売業	30.8	40.5	42.1	△ 5.3	5.4	(2.7)	20.5	20.5
	小売業	52.4	58.5	50.0	10.0	9.5	(16.7)	23.4	17.0
	運輸業	54.5	60.6	40.0	△ 2.9	△ 2.9	(5.9)	20.0	25.7
	情報通信業	50.0	45.5	40.0	0.0	0.0	(0.0)	0.0	5.3
	サービス業	71.1	72.1	58.1	10.6	8.9	(17.8)	17.8	17.8
	飲食店・宿泊業	76.2	63.6	9.1	△ 45.8	△ 48.0	(△ 32.0)	0.0	4.2

図表4-2. 雇用判断D. I. の推移



参考 5. 経営上の問題点

— 4期連続で「売上の不振」が最多となる —

〔2020年10～12月期実績〕

当面の経営上の問題点としては、4期連続で「売上の不振」（図表5-1の表頭①26.3%）の割合が最も高く、続いて「利益の減少」（同③19.7%）、「求人難」（同⑩13.8%）の順となった。

業種別にみると、すべての業種で「売上の不振」の割合が最も高くなり、建設業では同率で「求人難」の割合も高くなった。

図表5-1. 経営上の問題点(複数回答)

(単位：%)

区分	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
業種	売上の不振	製品安等	利益の減少	原材料高	人件費の増加	人件費以外経費の増加	代金回収難	借入難	余剰人員	求人難	設備・店舗の狭小等	事業承継	その他
全産業	26.3	1.5	19.7	5.9	8.2	6.2	1.5	0.9	1.6	13.8	10.0	2.4	2.0
製造業	21.7	1.2	19.9	12.0	6.0	9.0	1.2	0.6	0.6	10.2	14.5	1.8	1.2
建設業	22.0	0.6	17.0	8.2	11.9	6.9	1.3	0.6	0.6	22.0	4.4	3.1	1.3
卸売業	30.3	3.4	18.0	2.2	6.7	4.5	3.4	2.2	1.1	10.1	15.7	2.2	0.0
小売業	25.0	0.9	17.9	5.4	8.9	6.3	0.9	0.0	1.8	14.3	11.6	2.7	4.5
運輸業	34.6	0.0	23.1	3.8	6.4	3.8	0.0	0.0	3.8	14.1	6.4	2.6	1.3
情報通信業	27.3	0.0	22.7	2.3	9.1	2.3	4.5	0.0	4.5	13.6	9.1	2.3	2.3
サービス業	26.4	4.7	17.9	1.9	9.4	6.6	0.9	1.9	1.9	13.2	9.4	2.8	2.8
飲食店・宿泊業	35.5	0.0	29.0	1.6	4.8	4.8	1.6	1.6	1.6	6.5	8.1	1.6	3.2

図表5-2. 経営上の問題点(複数回答)

